



橋本健一郎氏
三月前半は、ECBドラギ総裁が一五、一六年の欧洲成長見通しを上方修正した上で、QE終了時期を延長する可能性に言及したことから、QD終了時期を上方修正した。

中国財務省が地方政府の高金利債務一兆元を低利の債券と交換する計画を発表。中国政府は景気刺激策を採用するのではとの見方が台頭するなど好材料もあつたが、二月の中国製造業PMIは四九・九に上昇するも景気分岐点の五〇に届かなかつたこと、一月の中国小売売上高は前年比一〇・七%増、予想は一・七%増、一月の中国の固定資産投資は前年比一三・九%増、予想は一五%増、一月の中国の不動産投資は前年比一〇・四%増、不動産販売は一五・八%減などの一連のマイナス材料を受け、LMEアルミニウム相場はDOWN、三月十五日時点一、七六四・五〇ドル(現物後場買入)と月初価格から三二・五ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、ギリシャ改革案をめぐる同国とEU、IMFの実務者協議は合意なく終了したこと、WTI原油の下落、さらに一月のユーロ圏失業率が一・三%と予測を下回った事などマイナス材料もあつたが、FOMC後のイエレン議長の証言を受けて欧洲の緩和政策や米の利上げ後のペースも穏やかになるとの観測や中国人民銀行の周総裁が利下げと量的緩和の両方について行う可能性を示唆したことなどを好感しJP、四月三日現在、LMEアルミニウム相場現物後場は一、七七一ドルと後半スタート価格から〇・五〇ドルUPしてのスタートとなつた。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一二一・二二一→一二一・〇三(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は

前年比五・三%減の八一万七、三九〇台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・一%減の

四一万八、〇二五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は

前年比三・一%減の六万七、五五三戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比六一・五%減の四七t、二次合金が三五・三%減の八〇二t、前月比でスクランプ輸出

アルミスクランプ需給をおタイトか

橋本健一郎氏
・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

が二五・九%減の五、七八二t、アルミ缶が四・八%増の一、一八三t。

輸入 輸入は新地金が前年比二三・二%増の二三万一、三四三t、二次合金が一三・四%増の九万三九一八t、スクランプが四〇%増の一、〇七八t、合金スクランプは五六・一%増の六、六七二t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一・六%増の一六万一、〇五六t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・八%減の六万五、八五四であった。

■概況

【自動車生産】

二月の四輪車生産台数は八一万七、三九〇台で、前年同月の八六万三、四五二台に比べて四万六、〇六二台・五・三%の減少となり、八ヶ月連続で前年同月を下回つた。

二月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車六九万二、〇七一台で四万九、三〇五台(六・七%)の減少となり、八ヶ月連続のマイナス。

このうち普通車は三九万九、〇六三台で八、五六五台・二・一%の減少、小型四輪車は二三万三、三九三台で三万〇、四五二台・一八・六%の減少、軽四輪車は一五万九、六一五台で一万〇、二八八台・六・一%の減少。

トラック二一万三、八〇七台で三、七五五台・三・四%の増加となり、四ヶ月ぶりにプラス。

このうち普通車は五万〇、七三〇台で一、四九〇台・五・一%の増加、小型四輪車は二万九、九二二台で一、〇八四台・七・五%の増加、軽四輪車は三万三、一五五台で八一九台・一・四%の減少。バス一萬一、五一二台で五二二台・四・三%の減少となり、二ヶ月連続のマイナス。

このうち大型は九八二台で二〇三台・二六・一%の増加、小型は一万〇、五三〇台で七五台・六・四%の減少。

二月の国内需要は四八万二、一〇三台で、前年同月比一四・七%の減少であった。うち乗用車四一万三、一九二台で前年同月比一五・八%の減少、トラック六万七、九二〇台で同七・七%の減少、バス九九一台で同七・九%の減少。

輸出は前年同月比〇・三%の減少。(実績)

(六面へ続く)

(四面より続く)

【自動車販売】

三月の国内自動車販売台数(軽は除く)は四万八、○二五トンで前年比一三・一%減。七月月連続マイナス。うち乗用車一四・六%減、貨物三・九%減、バス三・四%増。

【住宅着工数】

平成二十七年二月の住宅着工戸数は六万七、五五二戸で、前年同月比では三・一%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九〇・五戸。(前月比四・七%増)となつた。

住宅着工の動向については、リーマンショックを受けた大幅な下落(平成二十一年度)以降、緩やかな持ち直しの傾向が続く中、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあつて、このところ前年同月比で大幅な減少が続いているが、足下では減少幅が大幅に縮小した。

(持家)前年同月比では一三カ月連続の減少(前年同月比九・一%減、季節調整値の前月比では四・六%増)。

(貸家)前年同月比では八カ月連続の減少(前年同月比七・五%減、季節調整値の前月比では五・八%増)。

(分譲住宅)前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比一・二%増、季節調整値の前月比では〇・七%増)。

(分譲マンション)前年同月比では三カ月ぶりの増加(前年同月比二三・三%増)。

(分譲一戸建住宅)前年同月比では一〇カ月連続の減少(前年同月比〇・二%減)。

(仲銅品生産)

仲銅品生産は前年比一・八%減の六万五、八五〇t(〇・四%増)。内需五万四、四三三tで〇・四二%減と四カ月連続マイナス。輸出は一万一、四一八tで三・二%増と七カ月連続プラス。銅条二万〇、八八〇tで五・七%増と二〇カ月連続プラス。黄銅棒一万五、〇四六tで七・七%減と七カ月連続マイナス。堅調な銅条、銅棒に対して、銅管、黄銅棒が前年対比でマイナスが続いている。

(銅電線出荷量)

電線は前年比一・五%減の五万九、四〇〇t。うち国内二・四%減、輸出が四・七%減。通信八・二%増、電力五・九%増、電気機械二・九%減、自動車〇・一%増、建設電販二・五%減、その他内需一三・九%減。

(輸入)電気銅が九四・七%減の二、七二六t。スクラップは一七・九%減の六、〇二七t。(見通し)

自動車は生産が前月に続き減少の五・三%減。また三月の国内販売台数も前年比二三・一%減と悪化。

今月も生産台数、販売台数共に減少してきており、また輸出も微減ではあるが減ってきており

り、今後の動向に注目。全体としては四月も更に悪化するのではないか。

・新設住宅着工数は前年比三・一%減。季節調整済年率換算値で八六・四万戸(前月比四・三%増)と一カ月連続減少。ただ季節調整済換算では六カ月ぶりプラスに転じた。

・仲銅品は前月はマイナスだったがプラスの前年比〇・四%。銅条は輸出を中心に堅調さが見られたが、黄銅棒、銅管は住宅関連の低調さを受け調整が続いた。

・今月も仲銅品生産は板条の増加、輸出に支えられている面もあり、内需に期待したいが四月も内需が急回復するとは考えにくい。

・輸出は中国景気後退による需要減への警戒感や一・八九・一二〇円レンジの大幅な円安トレンドから地金は増加、スクランプは自動車、住宅生産の減少による需要減や先行き不透明感から需要は増えないものの、内需玉も手一杯なことから小幅減少。

・輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少との見解。

【スクランプ需給予想】

電気銅生産・販売の目途も立たないことがあれば、仲銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらず今月は在庫薄状態。

メイカーハは慢性的な住宅販売の低調に加え、自動車生産・販売の目途も立たないことがあれば、入意欲は薄いものの、新年度入りの受注手当需要があるとの予測から、低位安定との見解。

【価格・為替予想】

今月は、ギリシャ債務問題の進展、中国の景気対策に左右される。

ギリシャ政府は、ECBや独首相との会合を幾度のなく繰り返しているものの、有効な債権策は得られず、伸ばし伸びの状態が続くのでは。ただその過程での提案や受け入れでの一喜一憂はあるとの見解。

中国景気対策に関して、中国・李首相が先月十五日に時点での金融緩和などの対策を行う準備があるとの発言をしていることから、四月中に金融緩和などの対策が行われる可能性は高いとの見解。

債務問題でECBとの一定の歩み寄りが見られ、さらに中国の金融緩和などの対策がだされ場合、三月後半高値付近の六、二〇〇ドルを予測。いずれかの場合五、九〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合もう一段安値の五、七〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて六月から九月にずれ込むとの認識はコンセンサスを得たが、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から四月中もドル高傾向がつづくのではないか?

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は一一九円台。下値は特に新規材料難の場合一二円台と予測(TTM)。

銅建値に閑しては七三〇~八〇〇円程度と予測している。